

少年犯罪が起こる原因と背景

～新聞記事とアニメに着目して～

村田陸玖(駒崎ゼミナール)

HS19-1003G

論文の目次

- 序章 本研究に着目するに至った背景
- 第 1 章 研究の背景と目的と方法
 - 第 1 節 少年犯罪の定義
 - 第 2 節 少年犯罪の比較と傾向
 - 第 3 節 少年法の改正の変遷
 - 第 4 節 本研究の目的と方法
- 第 2 章 子どもの権利条約と少年犯罪
 - 第 1 節 子どもの権利条約について
 - 第 2 節 犯罪後の少年たちの処遇
- 第 3 章 少年犯罪とメディアにおける先行研究
 - 第 1 節 少年犯罪報道
 - 第 2 節 新聞での報じられ方
 - 第 3 節 犯罪の背景
 - 第 4 節 メディアの影響
 - 第 5 節 児童自立支援施設の課題
- 第 4 章 少年犯罪が起こる原因と背景
 - 第 1 節 調査の目的と方法
 - 第 2 節 新聞記事からの結果
 - 第 3 節 アニメからの結果
 - 第 4 節 考察
- 第 5 章 本研究の考察と今後の課題
 - 第 1 節 少年犯罪が起こる主な原因
 - 第 2 節 本研究の課題
- 終章 本論文から見えてきたこと
- 参考文献

序章

近年、少年犯罪の種類や形態が変化してきている。少年犯罪や若者の犯罪は、増えていると認識していたが実際に調べてみると少年犯罪は減少しているため、ニュースやアニメなどのメディアで取り扱われている犯罪と実際に現代社会で起こりうる背景について卒業論文を通して考えていく。

第 1 章 研究の背景と目的と方法

少年犯罪とは少年が起こした事件であり、少年事件とは未成年(20 歳未満)によって起こされた事件のことである。少年犯罪は、近年減少傾向にあり刑法犯、危険運転致死傷及び過失運転

致死傷等の検挙人員は、平成 24 年以降戦後最少を記録し続けていて、令和 2 年の刑法犯、危険運転致死傷及び過失運転致死傷等の検挙人員は、戦後で最少となる 3 万 2063 人であった(犯罪白書令和 3 年度版)。

本研究の目的は、現代の少年犯罪の起こる原因と背景の形を新聞記事やアニメ等のメディアから捉えることである。少年犯罪は、事件数だけでいうと年々減っている事が犯罪白書のデータなどから見てとれる。少年犯罪は昔と今で変化してきている。その変化を追うことにより犯罪の傾向を掴むことができれば未然に犯罪に対して対策を立てやすくなる。そのためにも、変化して来ている少年犯罪の種類や背景を探り少年が非行に走ってしまう原因を明らかにする。

本研究の方法は、先行研究や法務省のデータ等から少年犯罪を整理するとともに、少年犯罪の起きる背景を新聞記事やアニメ等のメディアから明らかにし、それを子どもの権利に照らし合わせ社会や家庭などの視点から考察する。

第 2 章 子どもの権利条約と少年犯罪

「児童の権利に関する条約(子どもの権利条約)」は、子どもの基本的人権を国際的に保障するために定められた条約である。前文と本文 54 条からなり、子どもの生存、発達、保護、参加という包括的な権利を実現・確保するために必要となる具体的な事項を規定している。2019 年時点で 196 の国と地域が子どもの権利条約に批准している。子どもの権利条約には、4 つの原則があり生命、生存及び発達に対する権利(命を守られ成長できること)、子どもの最善の利益(子どもにとって最も良いこと)、子どもの意見の尊重(意見を表明し参加できること)、差別の禁止(差別のないこと)がある。

少年が犯罪や非行を行った後には、大人の犯罪後の過程と比べると多くの処遇の方法がある。まず先に述べたように、年齢や罪を犯すという内容によって、最初に検察庁、家庭裁判所、児童相談所に送られるかが異なる。その後も、少年鑑別所、少年刑務所、少年院、児童自立支援施設などの入所などがある。

第 3 章 少年犯罪とメディアにおける先行研究

牧野(2006)によると近年の世の中の犯罪に対するイメージには、低年齢化や残酷化、動機が見えないと言ったものがあり、非行をしそうな子とそうでなさそうな子の境界が曖昧になってきていると言ったものがある。そしてメディアがこの現状を煽り、世間での少年犯罪に対する不安が増大していると言った流れが見られる。少年犯罪の報道量は、近年増加していて「心の闇」というワードが多く使われていて、加害少年の悪意ばかり報道され加害少年が犯罪に至った背景や家庭環境などについて語られることが少なくなっている。

第 4 章 少年犯罪が起こる原因と背景

本稿の調査の目的は、2つある。どちらもメディアからみた少年犯罪についてであるが、1点目として新聞記事をもとに少年犯罪の種類や背景を明らかにすること、2点目としてアニメから少年犯罪の種類や背景を明らかにすることである。新聞記事の分析対象は、読売新聞とし検索には「ヨミダス歴史館」を用いる。アニメに関しては、CiNi 検索を行ったところ、「アニメ、犯罪」、「アニメ、非行」それぞれ論文がなく、新聞記事検索のような情報サイトもないため、筆者自身の調査から代表的な作品をいくつか提示こととした。

新聞記事とアニメからの調査の結果、少年非行の原因は主に「虐待を背景とする事件」、「家庭環境を背景とする事件」、「障害を背景とする事件」の3つがあるということがわかった。必ずしも上記のものだけではないが虐待、複雑な家庭環境、障害があるのは確かである。特に、発達障害と虐待の両方が記事の中にワードとして出ているものも多く、生育過程の中で虐待を受け発達障害になり、自己抑制力の欠如などに繋がり非行に走ってしまうという負のサイクルが生まれている。アニメにおいて犯罪というワードは、作品の系統などにもよるがかなり関連が深い。

本研究において、取り上げた少年非行の起こった原因、背景から分かるように加害少年も過去に虐待などの被害者である場合が多い。この被害というのは、虐待の中でも暴力などの直接的なものだけでなく個人が感じる孤独感も子どもの権利から考えると被害と考えることができる。まず虐待から考えると生きる権利、育つ権

利、守られる権利、参加する権利が主に守られていないと筆者は考える。この4つの権利は、子どもの権利条約を大きくまとめた4原則であり、これらが守られていないということが問題であるということは、言うまでもない。

第 5 章 本研究の考察と今後の課題

本研究では、少年が非行に走ってしまう大きな原因を掴むことができた。その原因には、虐待、家庭環境、発達障害などがあつた。だがこれらは、それぞれの事件に共通する項目を取り上げただけにすぎず個人個人に寄り添うことはできていない。また原因が分かっても明確な解決策は、提示することができていない。専門家などでは、なく一般人がまずどんな行動を起こせば事態を緩和させることができるかは、分かっていない。そして虐待などの非行少年につながるとされる原因がなぜ発生してしまうのかつまり原因の原因が分かっていない。だが世代間の連鎖というのは、とても大きな影響があることが分かっている。世代間に着目すること、今後の問題解決のヒントになりうるかもしれない。本論文における反省点としては、抽象的な原因と解決策は見つける事ができたが明確な原因と解決策はまだ模索途中である。

終章 本論文から見えてきたこと

本論文では、少年犯罪の起こる原因と背景について考えてきた。少年犯罪が起こる原因として、環境というものが大きく関係してくることがわかった。

家庭という小さな社会で考えると虐待や複雑な家庭環境など社会が自分を拒んでいると思ってしまうような環境が少年犯罪に繋がっているのではないかとこの考察に至った。そしてその解決策としては、大小様々な社会の中での負の連鎖を断ち切るということが挙げられた。そして自己を社会から切り離して、自己を確立し強固なものにしていくことが重要である。そのために必要なサポートを社会の代わりにできるものを探す事が解決策になるのではないかと筆者は考える。

主要参考文献

法務省『犯罪白書』（令和3年度版）
牧野智和, (2006), 「少年犯罪報道に見る『不安』 - 『朝日新聞』報道を例にして-」, 教育社会学研究第78集, 129-146.